

福祉たすけあい基金BOOK

17期・18期の助成団体紹介



17期贈呈式 2022/9/30@オルタナティブ生活館(オンライン併用)



18期贈呈式 2022/12/7@オルタナティブ生活館(オンライン併用)



公益財団法人

かながわ生き生き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund

目次

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は	3
福祉たすけあい基金とは	4~5
選考講評（第 17 期、第 18 期）	6

【第 17 期福祉たすけあい基金（第 7 期スタート助成）助成団体】

特定非営利活動法人ふじぼけ	7
NPO 法人おでかけ綾瀬（3 回目）	8
一般社団法人かけはし	9
NPO 法人霧が丘ぷらっとほーむ	10
一般社団法人アマヤドリ	11
横浜市立大学 one by ONE	12
リンパ浮腫ネットワークジャパン（2 回目）	13
一般社団法人 みんなのレモネードの会（2 回目）	14
一般社団法人働くしあわせプロジェクト	15
一般社団法人あそびの庭	16
特定非営利活動法人 Compass	17
NPO 法人フードバンク浜っ子南（2 回目）	18
一般社団法人 Thoughtful Gift	19
Book&Art ニワシドリ（2 回目）	20
特定非営利活動法人居場所 そら	21
NPO 法人 DV 対策センター	22
一般社団法人ヨコハマ・インクルボッチャ・ラボ	23
NPO 法人サザンコアラ	24

【第 18 期福祉たすけあい基金助成団体】

川和日本語教室	25
コミバス市民の会	26
特定非営利活動法人南えびなスポーツクラブ	27
NPO 法人ふかふか	28
金沢子ども食堂すくすく	29
特定非営利活動法人地域で子どもを育む会	30
特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブ キャリージョイ	31
東大跡パラスポーツの会	32
着物 de 文化フォト未来業	33
一般社団法人 Titina	34
特定非営利活動法人さくらんぼ	35
お福わけの会	36
逗子ゼロ・ウェイストの会	37
一般社団法人ウィメン&キャンサー	38
特定非営利活動法人峠工房	39
NPO 法人街の家族	40
特定非営利活動法人アスリード	41

財団を応援する「賛助会員」募集と「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い…… 42~43

公益財団法人 かながわ生き活き市民基金は..

◆成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合（1971 年創立）は、90 年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくかのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990 年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク（「女性・市民コミュニティバンク」の前身）をつくり、1998 年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は 2003 年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の 10 年間の助成活動の実践を経て、2013 年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団法人かながわ生き活き市民基金」を設立しました。

◆ミッション

＜投資して利潤を稼ぐことが経済＞という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくるのが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、子どもや障がいを持つ人が生きにくい社会になっています。

かながわ生き活き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくかのお金などの社会資源を拠出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き活き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を通じた市民活動・事業への支援です。現在 3 つの助成プログラムを行っています。

福祉たすけあい基金（2015 年度から通常型助成とスタート助成を実施）は、意思ある生活クラブ組合員 1 万 1 千人の月 100 円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラム「エラベル」は、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラムは寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業以外には、講座事業、ネットワーク事業などを行っています。



福祉たすけあい基金とは

福祉たすけあい基金はこれからの地域社会をつくっていくために、市民自らが福祉活動の主体となっていくこと、そしてその基盤となる市民同士がたすけあう関係を育て、地域を豊かにしていくことをめざして生み出しました。かながわ生き生き市民基金の助成事業の一つに留まらず、かながわ生き生き市民基金を支える基金です。福祉は人々の生活そのものと言ってもよく、福祉たすけあい基金では高齢者、子ども、女性、外国人、障がい者など様々な弱い立場の人々を支援する活動に助成しています。



福祉たすけあい基金の特徴 ～ 1 万人 1 千人に支持される基金～

福祉たすけあい基金は市民一人ひとりから毎月（毎年）寄付を集め、おおぜいの力でまとまった額の基金を創りだしているのが特徴です。98%以上にあたる寄付が生活クラブ組合員約 1 万人 1 千人の毎月 100 円の寄付で寄せられています。これだけおおぜいの寄付者が趣旨に共感し、継続的に基金を支えていることは福祉たすけあい基金の最大の強みです。今後も顔の見える支持者をさらに広げつつ、基金のミッションを伝え地域に広げていかなければならないと考えています。



福祉たすけあい基金の助成事業

毎年 2 回助成を行います。1 申請上限 100 万円の助成（通常型）と、比較的小さなアソシエーション等の活動の立ち上げや、活動初期の基盤づくりを応援する「スタート助成」をそれぞれ 1 回ずつ行っています。福祉たすけあい基金にはこれまで 321 団体から約 1 億 4,100 万円の申請があり、地域で福祉たすけあいの市民活動を行う 215 団体へ約 6,800 万円を助成しました。

第 9 期からは「スタート助成」を既存団体の新規事業立ち上げにも広げ、これによって既に地域で活動実績を持つ団体が、これまでの実践を通して見えてきた新たな地域課題の解決にも活用が広がっています。

福祉たすけあい基金 助成事業	福祉たすけあい基金 ～通常型～ 	福祉たすけあい基金 ～スタート助成～ 
助成総額	400 万円	500 万円
1 件当たり上限	100 万円	40 万円
活動回数の規制	なし	最長 3 回まで同一事業での申請可能





第 1 期～18 期までの申請・助成実績

赤字部分はスタート助成

	助成時期	助成団体数	助成金額（円）	申請団体数	申請金額（約万円）
第 1 期	2014 年 4 月助成	9	4, 514, 100	34	2400
第 2 期	2015 年 2 月助成	12	3, 944, 950	17	700
第 3 期	2015 年 5 月助成	11	3, 822, 000	20	1084
第 4 期	2015 年 8 月助成	13	3, 389, 131	20	1000
第 5 期	2016 年 3 月助成	6	1, 667, 633	12	390
第 6 期	2016 年 8 月助成	7	3, 245, 769	18	640
第 7 期	2017 年 4 月助成	10	2, 493, 230	16	490
第 8 期	2017 年 8 月助成	13	4, 000, 000	20	1000
第 9 期	2018 年 4 月助成	16	4, 346, 100	24	740
第 10 期	2018 年 8 月助成	11	3, 560, 382	19	859
第 11 期	2019 年 4 月助成	14	4, 440, 364	15	508
第 12 期	2019 年 8 月助成	11	3, 941, 072	13	611
第 13 期	2020 年 4 月助成	12	3, 266, 759	13	393
第 14 期	2020 年 11 月助成	8	3, 275, 903	10	544
第 15 期	2021 年 4 月助成	16	5, 000, 000	17	581
第 16 期	2021 年 8 月助成	11	3, 996, 881	11	461
第 17 期	2022 年 4 月助成	18	4, 998, 871	21	716
第 18 期	2022 年 9 月	17	4, 000, 000	21	999
合 計		215	67, 903, 145	321	14, 116



申請事業活動の特徴

第 1 期から第 18 期までのべ 215 団体に助成を行ってきた中で、子ども食堂や学習支援など、子ども・若者の貧困に関する活動を行っている団体や、高齢者福祉に関する活動団体が目立っています。また、障がいへの認知を広げる活動や障がいを持つ方の社会参加を支援する活動、ひきこもりのピアサポート活動からの申請もあり、人々に寄り添いたすけあいを進める幅広い活動に申請が広がっています。



市民活動の先駆性・有効性・持続性・参加性、そして社会を変える意気込みに期待

選考に当たっては、事業・活動の先駆性や有効性、持続性と共に、広く地域の人々や団体と連携し、時間・知恵・労力・お金などを拠出し合い、市民が主体となり地域の課題を解決する参加性が重視されます。また市民事業・活動を生み出し、育成し、事業拡大するだけでなく、市民の実践を根拠にアドボカシー活動を行い、社会を変えていく志が拡がることが期待されています。

選考委員(敬称略)

委員長	手塚 明美	一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ	理事長
	田中 夏子	イタリア協同組合研究者/ 農業者	
	川岸 卓哉	弁護士/ (特非) 原発ゼロ市民共同かわさき発電所理事長	
	友澤 ゆみこ	(特非) ビッピ・親子サポートネット	理事長
	小田 鈴子	元逗子市副市長/元逗子市議	
	高村 文子	横浜YMCA 国際・地域事業担当チーフディレクター	
	伊藤 保子	(特非) さくらんぼ理事 共生事業担当	
	中村 園子	湘南生活クラブ生協理事	
	三浦 紀子	かながわ生き生き市民基金理事・生活クラブ神奈川副理事長	





福祉たすけあい基金 選考講評

選考委員長 手塚 明美

(一社) ソーシャルコーディネートかながわ理事長

(公財) かながわ生き生き市民基金理事

第 17 期

福祉たすけあい基金 17 期スタート助成は、長引くコロナ禍の中での募集となりました。夏に実施される通常助成よりもスタート助成は応募団体が多い傾向にありますが、今回はそれに勝る多くの団体にご応募いただきました。生き生き市民基金では、この 2 年間多岐にわたる関係組織からのお声掛けにより、新型コロナ対応助成を複数回行っており、地域で工夫をしながら生き活きと活動している多くの草の根団体への支援を積極的に実施させていただいた賜物と受け止めております。



多くの団体からの応募は、嬉しい反面、皆様の想いの全てにお答えできない悩みも生み出します。結果として、18 団体への助成を決定することになりましたが、半数以上の団体の皆様にはご希望金額に満たない助成となりました。本スタート助成は、最大 3 年間の支援という基準がありますので複数回の応募が可能です。また、生き生き市民基金の最大の特徴は、伴走支援にあります。組織の運営や活動へのアドバイスなどを行っておりますので、お気軽にお問合せ下さい。

この度は大変多くの団体の皆様にご応募いただき誠にありがとうございました。皆様のご活躍を心より祈念いたします。

第 18 期

第 18 期福祉たすけあい基金は、新型コロナ感染の拡大防止という、限られた活動環境を乗り越える勢いを感じるかのように、応募の際しての事前の相談では、説明会参加と個別相談を合わせて 40 団体以上の皆さんにお会いしました。締め切りまでに、21 団体が申請し、申請総金額は助成予算の約 2.5 倍の 9,994,738 円に上りました。今期の申請テーマの特徴は、障がい者支援活動が最も多く、生活困窮者支援、居場所づくりと続きます。申請金額は、それぞれの申請団体の予算規模によって、しっかりと必要な予算を積算されたと思われ、7 万円から 100 万円と広い幅がありました。

できるだけ多くの活動を支援したいという選考委員の思いから、約 3 か月をかけて選考し、満額助成は 3 団体に留まりましたが、一部助成 14 団体、合計 17 団体、総額 400 万円の助成を決定させていただきました。残念ながら、今期では助成することができなかった 4 団体の皆様の活動そのものへの賛同は十分にあったものの、限られた予算の中であって、見送らざるを得ない結果となりました。選考に関わった委員の一人として今回は大変重い選考会でした。

神奈川県下には、解決のできていない課題がまだまだ多く残されている現状です。福祉たすけあい基金は、その改善に向け頑張る非営利の市民活動に助成してまいります。引き続きのご支援とご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人 ふじぽけ（藤沢市）

代表 小澤 由加里

助成金額 261,500円

団体紹介

設立年月

2017年 1月設立

団体の目的・活動内容

<目的>

子どもを真ん中に多世代の市民が参加し、交流することで、子どもの健全育成に寄与する地域コミュニティを創造する。

<活動>

子どもがふらっと立ち寄り、自由にいられる、子どもの居場所（週1回・放課後1時半～5時）を提供する。2022年4月より「まちづくりハウスみろくじ」（空き家シェア活用ハウス）を利用。ボランティアの見守りの中、子どもそれぞれが「ふじぽけ」でのお気に入りの過ごし方を見つける。

活動歴

2016年3月 子どもの貧困問題に関心を寄せた藤沢市内の有志で結成

2017年～2019年

藤が岡市民の家で活動。青少年会館秋まつり、市民の家まつり出展他

2020年～2021年

御弊公園で活動。磯遊び、遠足、野鳥観察、竹遊び等の自然体験企画

団体情報

住所： 藤沢市弥勒寺 1-2 2-2 1

TEL： 090-6923-9846（小澤）

Mail： mail@fujipoke.org

URL： <https://www.facebook.com/fujipoke.org>

★助成した事業・活動

新たな拠点（空き家）での子どもの居場所活動

★内容

子どもの居場所事業（常設型）

★助成対象

家賃の一部、ボランティア交通費、物品購入費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

全く突然のコロナによる一斉休校が忘れられません。2020年3月、私たちの活動拠点であった市民の家も一時閉鎖となりました。三密が叫ばれ、人が集まることはままならず、子どもの居場所の活動はこれからどうしていけばいいのだろう。途方に暮れたあの当時、それでも近隣の公園にシートを敷き、レゴを広げたり、テーブルを置くと、好奇心でいっぱいの子どもたちが自然に集まるようになりました。居場所とは、“場所（施設）”じゃないんだ、“人”なのだ。どんな時でも、同じ顔ぶれの大人が迎え入れることが、子どもの居場所の意義なのだと感じ入りました。

とはいえ、屋外の活動は天候に左右され、公園に運ぶ荷物（遊具等）は重く、トイレのない公園での長居がボランティアの方に申し訳なく、限界も感じていました。このたび空き家をシェアするカタチで借りることになり、助成金のおかげで4月からスタートできます。感謝！さあこれからです。



NPO法人 おでかけ綾瀬（綾瀬市）

代表 柴田 雄二

助成金額 238,400円

団体紹介

設立年月
2019年11月設立

団体の目的・活動内容

介助と運転が一つになったサービスを提供する市民参加の福祉有償運送（移動サービス）を主活動とし、高齢者や障がい児者が今まで行きたくも行けなかった買い物やイベント、役所や病院などに、いつでも安心して外出できる様サポートすることで、綾瀬市民としていつまでも自分らしく安心して暮らせる事業とします。また、移動サービス事業を核として、地域市民や福祉団体、福祉従事者等が一体となって地域を支えることで、地域に欠かせない社会資本として構築することを目指して行きます。

活動歴

2019年11月 NPO法人設立後

2020年4月 事業開始に向け情宣活動や学習会を実施

2020年2月 運営協議会を経て4月より移動サービス事業開始

・コロナ禍の中現在まで2年間の外出支援活動を進め、利用者及び運行回数も順調に増えて、メンバー全員で対応にあたっている。更なる事業拡大に繋げるべくホームページを立ち上げ、課題であるメンバー増に対応していく。

団体情報

住所：神奈川県綾瀬市深谷中7-25-3

TEL：080-7610-3367

Mail：npodekakeayase@yahoo.co.jp

URL：https://odekakeayase.jimdo.free.com

★助成した事業・活動
福祉有償運送（移動サービス）

★内容
介助と運転が一つになったサービスを提供する市民参加の福祉有償運送）

★助成対象
研修講師料、物品購入費用

助成をうけて…の思い・メッセージ

「困ったときはお互い様」の精神を尊重して人の心に寄り添ったケアを地域に広げるために、市民参加の移動サービスを主体とした事業を行い、地域の活性化や地域住民の生活向上に寄与することを目的として立ち上げた『NPO法人 おでかけ綾瀬』ですが、3年目となる今年度はコロナ禍の状況が収束方向に向かうと信じて、お出かけ企画や団体交流などを継続計画し実行していき、積極的に利用者さんたちや関連団体との交流を深めていきます。そして、綾瀬市内の福祉活動を活性化させるべく、おでかけ綾瀬のさらなる事業拡大につなげて行きたいと思えます。

今回の生き生き助成を受けて、お出かけ企画や日々の運行で利用者さんのニーズに応えるべく車いすや乗降ステップの購入、内部研修等を実施しての実力アップに活用させていただきます。ありがとうございました。



大船フラワーセンターへ行き、楽しい時間を過ごした



日々の運行の様子

一般社団法人 かけはし（横浜市）

代表 廣瀬 貴樹 助成金額 400,000円

団体紹介

設立年月
2021年 4月設立

団体の目的・活動内容

こどもたちが安心して、自分自身を信じる力と自分の可能性を切り拓く力を育む居場所を創っていくことを目的に活動しています。公共施設をお借りして行う居場所づくり、相談事業、わくわく農園、こどもキャリア大学やかけはしプロジェクトなど、こどもたちに多様な学びの機会を創出できるように取り組んでいます。また不登校を経験するなどして働きづらさを抱えた若者が自分に自信をもち、社会的自立に向けた支援ができる場所として、空き家を活用した多世代が集うコミュニティカフェ事業を行っています。

活動歴

2021年4月 まなべる居場所かけはし運営、相談事業、わくわく農園
2021年5月 地域の居場所での放課後学習支援事業、かけはしプロジェクト
2021年7月 にじいろプロジェクト(コミュニティカフェ事業)空き家の改修開始
2021年9月 こどもキャリア大学事業(キャリア教育)
2021年10月 ネットワーク事業(こども若者の居場所連絡協議会の発足)
2022年4月 コミュニティカフェの運営開始

団体情報

住所:横浜市泉区上飯田町1019-4
TEL :090-2252-1080
Mail :info@kakehashi.link
URL:https://kakehashi.link/

★助成した事業・活動

地域で創るコミュニティカフェと社会的自立にむけた活動

★内容

空き家を活用した多世代が集うコミュニティカフェの運営

★助成対象

賃借料の一部

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

団体(法人)を立ち上げて一年も経っていない私たちの活動に真剣に耳を傾けてくださり、スタートアップの助成をしていただいたこと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。創設期にいる私たちには、明確なビジョンや信念がありますが、それを実現していくだけの基盤が脆弱です。さらに、地域の中での信頼をなかなか築けない現状がありました。しかし今回、助成していただいたおかげで新たな事業を立ち上げることができ、少しずつ地域の方から信頼を得られている実感があります。

不登校を経験したこどもたちや若者たちが、一軒の空き家を改修する中で、豊かな体験をし、それが自信となって、様々なことに挑戦しようとする姿がありました。不登校を経験する中で、自信を失っていくこどもたちや若者たちが、地域のあたたかな関係性の中で、自己肯定感を高めていき、自分の可能性を切り拓いていく力を育めるように、全力で支援していきたいと思っています。



NPO法人霧が丘ぷらっとほーむ(横浜市)

代表 根岸 あすみ

助成金額 400,000円

団体紹介

設立年月

2022年 4月1日設立

団体の目的・活動内容

少子高齢化に加え、ここ10年で急激にインド人が増えた町(800人のインド人が住んでいます)で、多世代・多文化交流ができる拠点を作りたいと活動をしています。

インド人との交流活動をしてきた団体、シニア世代の居場所創りをしてきた団体、そして子育て世代の助け合いを広げる活動をしてきた3つの任意団体の合意形成により、1つのチームを作り、世代も国籍も違うメンバーで令和3年度のヨコハマ市民まち普請事業に挑戦し、見事採択をされました。

地域コミュニティカフェの開設を目指し、同じ街に住む人が世代・国籍を超えてつながる事ができ、何かを一緒に楽しみ、その先に助け合える...そんな地域のたまり場・出会いのきっかけの場を創りたいと活動をしています。

活動歴

令和3年6月 まちとも霧が丘結成 ヨコハマ市民まち普請事業へエントリー。提案名:「地域でつながり楽しむ!多世代・多文化交流の新拠点」。インド人との多文化共生の活動を行う「KIC」。シニア世代の居場所創りを行う「福祉のまち霧が丘」。子育て世代の助け合いや多世代交流の企画を行う「まちプス」。3つの団体の合意形成でスタート

令和4年2月 ヨコハマ市民まち普請事業 採択

4月 NPO法人霧が丘ぷらっとほーむ設立

(つながる・ふらっと寄れるホームにという意味を含めました)

団体情報

住所: 横浜市緑区霧が丘

Mail: kirigaokaplatform@gmail.com

URL: <https://www.kirigaokaplatform.com/>

★助成した事業・活動

地域つなぐコミュニティカフェのオープン

★内容

URの空きテナントを活用し、シニア世代、子育てママ、インド人、こどもたちが、ふらっと立ち寄り、知り合い、おしゃべりをし、学び、作り、遊び、ゆっくりと楽しむことを通じてつながることができる場・空間を提供する。

★助成対象 家賃の一部

助成をうけて...の思い・メッセージ

この度は、私たちの活動を助成金という形で応援頂きましてありがとうございます!

立ち上げ1年目であり、かつボランティアな場を創りたいという私たちの大きな支えです。任意団体で活動をしてきましたが昨年1年をかけ、このまち普請の合格を勝ち取りその過程の中でNPO法人を創る覚悟をしカフェ開設と法人設立を同時で行っています。

私たちの法人の理事メンバーは代表の根岸が最少。

40代の副代表、50代の事務長を除き、全員が75歳以上の後期高齢者と呼ばれるメンバーです。

世代を超え、想いを一つにする事ができるメンバーと出会えた事が奇跡だと思います。

そして、私たちが創る場所は、この町に必要な場所だと自負しています。この「仲間」と共に、もうひと踏ん張り、ふた踏ん張り(笑)致します!引き続きよろしくお願い致します。



一般社団法人アマヤドリ（葉山町）

代表 菊池 操

助成金額 244,440円

団体紹介

設立年月

2020年 12月設立

団体の目的・活動内容

【目的】

既存の社会支援制度のすき間で困窮している18歳以上の若者から相談を受け、課題を整理するサポートを行い、社会資源に繋ぎ、必要な支援を届け、彼らの選択肢を増やすことで、若者が望む未来を選ぶことができる社会をつくることを目的として設立しました。

【活動内容】

＜相談・課題整理＞全国から相談を受付。18～29歳対象。性別関係なし。何に困っているか分からない、困りごとがたくさんあって何が課題か分からなくなっているとき、相談に乗り一緒に課題を整理する。

＜付き添い支援＞希望があれば、医療機関や役所などへ一緒に行って相談や手続きをサポート。

＜サポート付きシェアハウス運営＞親からの虐待等で孤立し、経済的に困窮している18～29歳の女性のサポート

＜居住支援事業＞18～29歳の児童虐待を受けた方、児童養護退所者、子ども（高校生以下）を養育している方、DV被害者、犯罪被害者等、生活困窮者、東日本大震災者。これから一人暮らしをする若者のサポート

＜情報発信・啓発＞SNSでの発信やメディア取材に応じることで、社会課題の顕在化に取り組む。

活動歴

2020年12月 団体設立

2020年12月 伴走型相談支援 開始

2021年5月 ステップハウスアマヤドリ開所（現サポート付きシェアハウスへ改称）

2022年4月 神奈川県 居住支援法人認定

2022年4月 神奈川県協働事業認定

団体情報

amayadri.stepphouse@gmail.com

<https://www.amayadori-official.net/>

★助成した事業・活動

多種多様な課題を抱える若者を理解し、課題解決に伴走するためのスタッフ研修

★内容

スタッフ全員の基礎力を向上させるためのアマヤドリに適したオリジナルの研修を企画。

★助成対象

スタッフ研修費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

今年度で活動2年目になるアマヤドリへ、今年度も助成をいただき心より感謝申し上げます。日本では18歳になると成人とみなされ、児童福祉法や虐待防止法などの支援制度の対象外になります。虐待などの理由で家庭を頼れない、家庭に居場所がない18歳以上の若者は、頼れる制度がわからない、お金がない等の課題を抱えています。アマヤドリは、孤立・困窮している若者をサポートするために活動しています。今年度の助成で、若者にとってより良いサポートを行っていくための専門的なスタッフ研修を開催できております。

若者たちは心身と住まいを整えることにより、就労を始められ、彼らが望む方向へと進んでおります。若者を「それぞれが望む未来」へつないでいくために、スタッフ一丸となって切磋琢磨して参ります。今後とも応援よろしくお願いいたします。



シェアハウス内観



研修講師とスタッフ

横浜市立大学 one by ONE (横浜市)

代表 光山 瑞穂

助成金額 271,700円

団体紹介

設立年月

2018年 12月設立

団体の目的・活動内容

入院中の子どもたちにも「つながり」を感じてほしい、楽しい時間を過ごしてほしい、をコンセプトに活動している横浜市立大学の学生団体です。

小児病棟に入院している子どもたちを主な対象として、入院中のお勉強をお手伝いする「オンライン家庭教師」、また小児病棟でのイベント企画も行っています。

活動歴

イベント企画 6回(のべ26家族69名参加)

オンライン家庭教師 130回以上

(2022年10月現在)

団体情報

URL:<https://onebyonechildren.jimdofree.com/>

Mail:onebyone.yokohama1122@gmail.com

★助成した事業・活動

小児病棟における院内家庭教師ボランティアおよび院内イベント企画

★内容

院内家庭教師ボランティアの拡張
Zoomを活用した院内イベントの開催

★助成対象

物品購入費、イベント費用など

助成をうけて…の思い・メッセージ

この度は横浜市立大学one by ONEの活動にご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

私たちは入院中の子どもたちに少しでも楽しい時間を届けたいとの思いで活動をしています。

助成をいただいているイベント企画部門では、コロナの影響により面会制限が続く中で、入院中のお子さんご兄弟含めたご家族と一緒に楽しめるようなオンラインイベントを企画しています。今までのイベントでも「家族の思い出が出来た」「宝物が増えた」などのお言葉をいただき、今回いただいた助成により今年度イベントの記念品の作成、さらにはオンラインデバイスの整備が可能となりました。今年度も子どもさんやご家族に楽しんでいただけるようなイベントづくりが出来るよう、メンバー一同邁進していきます。



リンパ浮腫ネットワークジャパン（横浜市）

代表 岩澤 玉青

助成金額 400,000円

団体紹介

設立年月

2018年 12月設立

団体の目的・活動内容

「リンパ浮腫」は、乳がんや婦人科がん等の治療後に発症する後遺症で、難治性疾患です。リンパ浮腫ネットワークジャパン（リンネット）は、リンパ浮腫に関わるすべての人が、困ることなく笑顔で安心して過ごせる社会を目指して、患者支援と医療環境改善を実現するために2019年11月に設立されました。準備期間を経て春から活動をスタートし、仲間と出会い 経験や知恵などを共有しながら支え合うおしゃべり会「なかまカフェ」や、正しい情報を学ぶ「リンパ浮腫セミナー」、リンパ浮腫に関係するがん患者会・支援団体や医療者が交流（ネットワークを構築）し、共に協力しあって活動できる関係づくりの場としての「ネットワーク・ラウンジ」などを開催しています。また、リンパ浮腫の「ワンストップ型の情報提供」を目指したポータルサイトの運営をしています。

活動歴

2021年活動実績

なかまカフェ: 6回 69人

リンパ浮腫セミナー: 5回 369人

ネットワークラウンジ: 2回 30人

リンパ浮腫のポータルサイトの運営

ロビー活動、講演他

団体情報

WEBサイト: <https://lymnet.jp/>

Mail: lymnet.info@gmail.com

FB: <https://www.facebook.com/LymphedemaNetworkJapan>

★助成した事業・活動

リンパ浮腫の実態調査と情報ポータルサイト（施設の一覧）の拡充

★内容

おしゃべり会「なかまカフェ」@Zoom

リンパ浮腫セミナー @Zoom

「ネットワーク・ラウンジ」@Zoom

テーマ別グループ相談会@Zoom 等

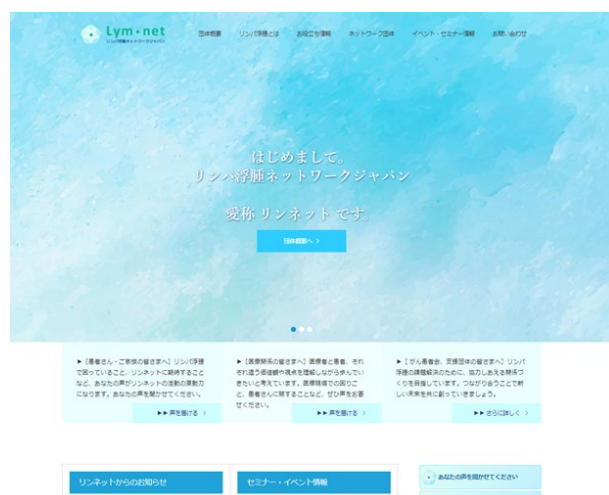
★助成対象

諸謝金、広報費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

この度は、リンパ浮腫ネットワークジャパン（リンネット）の活動にご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。がん治療後の後遺症である「リンパ浮腫」を取り巻く医療環境には様々な課題があり、リンネットでは、リンパ浮腫の患者支援と医療改善の改善に向けて取り組んでいます。

17期の福祉助け合いスタート基金に助成いただいたことは、運営面はもちろん私たちの精神的な支えとなりました。助成金によって、リンパ浮腫に悩むがん患者さんの環境が良くなるように、また、寄付をいただいた皆様のお気持ちが生かされるように、しっかりと活動に取り組んで参りたいと思います。本当にありがとうございました。



一般社団法人 みんなのレモネードの会（横浜市）

代表 榮島 佳子 助成金額 126,100円

団体紹介

設立年月

2020年 4月設立
任意団体設立は2016年12月

団体の目的・活動内容

一般社団法人みんなのレモネードの会は、横浜市に西区に事務所を置き、小児がん患児家族の立場から「小児がんのことをもっと知ってほしい」、「患児や患児家族でつながりたい」と小児がん啓発活動、患児やその家族の交流会などを開催しています。

活動歴

患児家族交流会の開催（みんレモオンライン自習室・みんレモオンライン交流会・ティーンエイジャーおしゃべり部）、小児がん啓発のための講演・朗読活動、レモネードスタンド開催、絵本原画展貸出、絵本（ぼくはレモネードやさん・ぼくはチョココロネやさん）プレゼント、CVカテテル固定具プレゼントなど

団体情報

<https://www.minnanolemonade.com/>

★助成した事業・活動

「みんレモサンタのしおり」制作

★内容

「みんレモサンタ」とは、当会のイベントや交流会に参加する子どもたち自身がお世話になった病院や施設にプレゼント（玩具や本など）を自ら届けるというものです。サンタになった時の手引きとしたり、感想を書き込み参加記念とできるようにする。

★助成対象

印刷費、諸謝金

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

今回助成いただいた「みんレモサンタのしおり」（仮）の制作は、2017年より行っている当会の大きな活動の柱である「みんレモサンタ」の活動のためのものです。会のイベントや交流会に参加する子どもたち自身がお世話になった病院や施設にプレゼント（玩具や本など）を自ら届ける際の手引きとなります。

2021年は約30名のサンタさんたちが、全国23の病院や施設にプレゼントを届けることができました。今年のサンタさんの活躍も見守ってくださると嬉しいです。



一般社団法人 働くしあわせプロジェクト（川崎市）

代表 石田 和之 助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2012年 5月設立

団体の目的・活動内容

（目的）

昔ながらの里山暮らしにならい、人と自然、人と人とのつながりを取り戻し、資源を無駄なく循環させ、お互いを支え合いながら働けるコミュニティをつくり、安心して心地よい暮らしを実現する

（活動内容）

- ・暮らしづくり
つながりが感じられる、心地よい、ていねいな暮らし
- ・仕事づくり
それぞれの“好き”や“得意”を活かした生業
- ・仲間づくり
お互いの暮らしや仕事を支え合える仲間

活動歴

- ・サークル活動
お米づくり、ちくちくの会（裁縫、刺繍）、夕方Kitchen（シェアキッチン）等
- ・季節行事
流しそうめん、味噌づくり、お餅つき等
- ・仕事づくり
竹細工スタート講座、ベビー＆キッズシッター講座等

団体情報

住所：〒215-0021
川崎市麻生区上麻生5丁目10-11
TEL：044-819-8491
Mail：info@hatarakushiawase.net
URL：http://www.hatarakushiawase.net/

★助成した事業・活動

住民に愛され頼られるコミュニティづくりに向けた広報活動

★内容

活動目的や内容、コミュニティへの多様な関わり方（生業の担い手、参加者、サポーター）をわかりやすく伝えるための広報誌を制作する。単なる読み物の配布で終わらないように、JINEN-DOで開催される各種教室やワークショップの優待チケット、ならびに、近隣住民とコミュニティメンバーの交流を図る定期的な催しを企画して、誌面に掲載する

★助成対象

広報費、土が作成費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

現在、子育て世代を中心に約30名が、衣食住や子育てにまつわるサークル活動や季節行事に集い、自分たちが理想とする暮らし、子育て環境、働く場を自分たちの手でつくろうと仲間同士、助け合いながら、それぞれのペースで活動しています。

少しずつ仲間が増えていますが、持続可能な活動としていく上で、より多くの仲間と支援者を必要としています。そんな中、今回、助成先として選定いただいたことで、広報ツールを制作できることになりました。誠にありがとうございます。

コロナ禍ですます社会が生きづらくなる中、近隣地域の住民のみなさま、とりわけ困窮している方々、孤立している方々に、ありのままの自分で行われる場、お互いの暮らしと仕事を支え合えるコミュニティとして認知してもらい、ご利用いただけるよう、努めてまいります。



一般社団法人 あそびの庭（二宮町）

代表 渡辺 優子 助成金額 360,000円

団体紹介

設立年月

2020年 10月設立（法人化は2021年2月）

団体の目的・活動内容

子どもは遊ぶ！大人だって遊ぶ！！にのみや町をあそびの庭に。地域団体や行政等と連携を図りつつ、「あそび心が広がる豊かな体験の場」を創り出すことで、子どもも大人も自分らしく心豊かに生きられる町づくり、社会づくりをしていくことを目的として、主に二宮町内で活動しています。

活動歴

- ・はらっぱベース（誰でもどうぞの居場所事業：2021年12月～）
- ・あそびの庭キャンプ（地元でキャンプ：春と秋）
- ・にのみや暮らし市あそびの庭（大人も子どもも楽しむ地元マルシェ：年2回）
- ・父ちゃんたちの課外授業（大人と子どものやってみよう！で生まれる講座）
- ・あそびの庭新聞の発行（スタッフ5人の情報発信：年4回）
- ・大人の遠足（大人の好奇心で生まれる企画）など

団体情報

活動地：神奈川県中郡二宮町

Mail: asobinoniwa2020@gmail.com

URL:

https://peraichi.com/landing_pages/view/asobinoniwa/

★助成した事業・活動

誰でもどうぞの居場所づくりと地域の大人の理解促進

★内容

東京大学の果樹園跡地内でコンテナを設置し、コンテナ内と屋外の広いスペースを使った居場所事業

★助成対象

コンテナ利用料

助成をうけて...の思い・メッセージ

昨年度より子ども真ん中・誰でもどうぞの居場所事業「はらっぱベース」をプレオープンしていましたが、本助成を受けることで、今年の4月から本格オープンすることができました。学校へ行っている子も、行かない、行けない子も、未就学の親子や地域のみなさん、高校生や若者も「誰でもどうぞ」の場をつくること、そしてそこに携わる大人たちが、「あたたかいまなざし」を学び続け実践していくこととまなざしを地域へ発信していくこと、このふたつの柱を軸に事業を進めております。この場を創ったことで出会えた子どもたちがいます。その子自身の特性を理解し受け入れながら、保護者を含め周りの大人たちで連携し共有していくこと、悩みをひとりで抱え込まず、大人も子どももみんなで育ちあう、そんな場として育っていくといいなと思います。まだまだ始まったばかりの事業ですが、「しあわせに生きる」社会づくりへと繋げていきたい思いでいます。



特定非営利活動法人 Compass（海老名市）

代表 松島 希

助成金額 400,000円

団体紹介

設立年月

2015年 設立(NPO法人化は2021年2月)

団体の目的・活動内容

- ・街の中で子どもを育てる。
- ・子ども達を親や学校だけでなく、地域のオトナやナメの 関係で育てよう。
- ・福祉や教育の課題を、はみ出すチカラと受け入れるチカラで解決していこう。

当団体は、学童保育事業を通じ子ども達が安心して過ごせる居場所づくりを行ってきました。連携する生活困窮家庭に対する学習生活事業では、子ども達を取り巻く貧困・教育格差について取り組んでいます。

活動歴

- ・放課後児童健全育成事業
 - ・生活困窮家庭の中学生に対する学習生活支援
 - ・路線バスを活用した、地域コミュニティ居場所事業
- 海老名市内で少子高齢化率が最も高い国分寺台の中で、家庭の経済環境や障がいの有無にとらわれず、子ども達が安心して通える学童保育所を6年前設立しました。もうひとつの一般社団法人LIGHTHOUSE(非営利型)では中学生に対する学習生活支援事業Paddleを運営し、6歳から15歳までの子ども達とその家庭をサポートしています。

団体情報

〒243-0413 海老名市国分寺台2-11-21

TEL:046-204-5015

E-mail: compass@ebina-anchor.jp

U R L: <http://ebina-anchor.jp/>

★助成した事業・活動

海老名市国分寺地域に交流と賑わいを生み出す居場所「OMNIBUSオムニバス」事業

★助成対象

駐車場代

助成を受けて...の思い・メッセージ

学童保育からはじめる街づくり

みなさんのおかげで、地域に新しい居場所をつくれます。

引退した路線バスを多世代のコミュニティの場に。コンセプトはよりみち×コミュニティ=よりみてい。企画運営は学童保育で育った子ども達(現役高校生・大学生)コロナで活動を制限された生活の中でも、自分たちでできることを見つけようと始まった企画です。バスの路線図同様、どこまで繋がるかは、自分達次第。路線バス同様、乗り合いですので、自分達だけでなく多くの方や団体と乗り合いながら、誰かの夢を叶えたり、チャレンジを応援できる場にしたいと考えています。

また商店街の中にあるという立地を活かしながら、各お店等とも協力し合いながら、商店街の新たな価値を生み出していきます。

ぜひ、皆さんの乗り合いをお待ちしています。お気軽にいらしてください。



NPO法人 フードバンク浜っ子南（横浜市）

代表 下山 洋子 助成金額 360,000円

団体紹介

設立年月

NPO法人設立 2021年4月23日

団体の目的・活動内容

企業が製造または取り扱う食品で品質上問題はないが様々な理由により市場に出すことができなくなった食品、防災用品の定期的入替えに伴い余剰となった食品、個人の方々の消費しきれない食品等を寄贈いただき、それら食品の消費期限、賞味期限等の安全性に十分留意したうえで、「食品支援を必要としている方々」に無償で提供する活動を行う。この活動を通して、だれひとり取り残すことなく食を分かち合える心豊かな社会を創ることを目指していく。

この目的を達成するため、(1)フードパントリー事業（ひとり親家庭への食品提供支援）(2)フードデリバリー事業（子ども食堂等への食品提供）(3)フードドライブ事業（提供食品の寄付を募る活動）を行う。

活動歴

2020年7月戸塚区でフードパントリー開始以来、一人でも多くの方に食品を手渡せるよう活動を広げてきた。同年10月南区、2021年2月磯子区、7月戸塚区2カ所目、2022年4月南区2カ所目を開始し、2022年度は毎月5会場で開催、参加は160家族以上となっている。

団体情報

所在地 横浜市戸塚区深谷町1252番地13

ドリームハイツ3棟203号

TEL:080-9201-4357

Mail:smile@fbh-minami.org

URL : www.fbh-minami.org

★助成した事業・活動

ひとり親世帯への食料支援および子ども食堂など地域団体への食料提供と、提供食品を募根活動を通して、地域に食の助け合いの輪をひろげる活動

★内容

フードパントリー ひとり親とその子ども対象

フードデリバリー 子ども食堂、こどもの居場所

フードドライブ 地域の住民、団体、企業

★助成対象

倉庫賃料

助成をうけて...の思い・メッセージ

昨年度に続き助成ご支援をいただき、本当にありがとうございます。助成金によりフードバンクの活動に必須の食品保管倉庫を確保することができています。物流拠点を持ち安心して活動が続けられることは何より有難いことです。コロナ禍でひっ迫するひとり親さんの窮状に接し、支援活動のため立ち上げた団体ですが、フードバンクの活動を地域に根付かせ地域に必要とされる団体となれるよう昨年度NPO法人化いたしました。たとえコロナ禍が収束したとしても、以前に戻るのではなく少しでも良い社会に変えていかねばと考えます。団体のキャッチフレーズ「安心が幸せにつながる食支援ネットワーク」のとおり、ご寄付いただく方々、利用するひとり親さん、ボランティア、食支援を通してご縁のできた子育て支援団体や子ども食堂や施設などとの信頼関係を育みつつ、地道に活動を広げてまいります。



一般社団法人 Thoughtful Gift (横浜市)

代表 菊池 奈々子 助成金額 296,160円

団体紹介

設立年月

2021年3月設立

団体の目的・活動内容

私たちThoughtful Gift(ソースフルギフト)は、精神障害により閉鎖病棟などの精神科病院へ入院する際に必要な物資を無償で提供する非営利団体です。主に神奈川県内の病院を対象としています。

活動歴

- ・発足から1年で60件以上物資をお送りしました。
- ・60を超える神奈川県下の精神科を有する病院や行政へ活動のご案内を送りました。
- ・自治体の市役所などにチラシを設置し、活動紹介や寄付募集を広告しています。
- ・企業や行政、他団体と連携し、一緒に精神疾患の理解を深めると共に物資の寄付を募っております。
- ・2022年3月に武蔵小杉グランツリーで行われた、かわさき市民活動センター主催つながるマルシェに参加し、当団体及び精神疾患・メンタルヘルスの理解促進を目指すシルバーリボンの啓蒙活動を行いました。約90名の方に入院する方向けのカードにメッセージを書いていただきました。
- ・市民活動センターや社協にボランティア募集を掲載させていただき、近隣大学にも連絡した結果、ボランティアメンバーが7名に増えました。

団体情報

住所: 神奈川県横浜市中区桜木町1丁目101番地1
クロスゲート 7階

Mail: thoughtfulgift.info@gmail.com

URL: <https://www.thoughtfulgift.org/>

★助成した事業・活動

ミーアの贈り物

★内容

賛同する企業、団体、個人からの寄付品を精神科入院当事者に無償で提供する。

★助成対象

宅配料、バーチャルオフィスレンタル料、謝金等

助成を受けて...の思い・メッセージ

この度は患者さんに送る物資の配送費や団体の運営に必要な費用を助成頂き、ありがとうございます。活動し始めてやっと1年経過したのですが、既に60件を超える支援を行っており需要の大きさを感じております。助成のおかげで増加する支援依頼に滞りなく対応することができそうです。

新型コロナや社会状況の変化もあり、様々な形でストレスを感じる方は増加傾向にあります。精神疾患を抱える患者さんにそっと寄り添いながら、私たちはあなたの回復をゆっくり待っていますというメッセージを支援物資とともに送り続けたいと思います。



Book & Artニワシドリ（座間市）

代表 飯島 公子 助成金額 330,049円

団体紹介

設立年月

2020年11月設立

団体の目的・活動内容

本やアート（表現活動）を仲立ちとして人と人とがつながり、地域における居場所となる活動をめざして次の3つの柱で活動を進めています。

*「まちライブラリー（文庫）」活動で、本やおもちゃの閲覧・利用、貸出しや読書会・絵本セラピーを通して、様々な世代の交流ができる、斜めの関係づくりを目指しています。

*アートワークショップ活動では、参加者自身の創造性を引き出すとともに、他者との多様な交流のなかで、新たなものの見方や考え方に触れ、自身の表現活動を通して自己肯定感を高める体験の場としていきたいと考えています。

*体験活動では、子ども達に具体的な体験をよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら「なぜ？どうして？」と考えを深める中で、実際の生活や社会・自然の在り方を学んでいくような活動を目指します。

活動歴

*「まちライブラリー@ざま☆ほしのたに文庫」「まちライブラリー@しもみぞ」にて、本の貸出し、アートワークショップ、絵本セラピー等の企画・運営

*障害児者余暇支援活動の、アートワークショップの企画・運営

*相模原市、座間市等での絵本セラピー、アートワークショップの開催

*喫茶ランドリーホシノタニ団地店とのコラボで、巣箱ライブラリーの運営

団体情報

住所：〒252-0028 座間市入谷東4-60-33

Mail:hoshinotani.bunko@gmail.com

https://www-facebook.com/hoshinotanibunko

★助成した事業・活動

Book & Artニワシドリ（空き家活用プロジェクト）

★内容

文庫活動、アートワークショップ活動

★助成対象

物品購入費、謝金、ホームページ作成費等

助成をうけて…の思い・メッセージ

15期に続き、2年目のスタート助成をいただきありがとうございます。

助成金を活用して、広報活動や物品購入を充実させることができ、多くの方にライブラリーを利用していただくことができました。「まちライブラリー」という活動拠点をもつことで、地域のさまざまな方々と繋がることができ、人との繋がりこそが何よりの財産であると感じることができました。活動する中で、新たな課題も見えてきました。コロナ禍の制限の中で、孤立しがちな子育て世代や高齢者、学校に行かないという選択をした子ども達や障害がある子ども達の多様な学びの場の必要性、学童保育に入れなかった子どもたちの居場所…等々。運営をしていく中で多くの課題はありますが、事務局の皆さんの的確なアドバイスを励ましのお言葉、また他の助成団体の皆さんの活動にお力を頂いています。まちの居場所として、また情報交換や交流の場として、今期は子どもの学習支援活動や、子育て世代の応援事業として講演会の開催等の新たな活動を地域の方々と繋がりながら展開して行きたいと思っています。



特定非営利活動法人居場所 そら（横浜市）

代表 水信 理恵 助成金額 140,000円

団体紹介

設立年月

2022年4月設立

団体の目的・活動内容

未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えるために、地域・学校と連携・協働して誰もが安心して過ごせる居場所や学びの場をつくり、子どもや青少年及びその保護者を支援し、人と人とのつながりを大切にしたい地域環境、社会の発展に寄与することを目的に活動しています。

学校に行きづらい子どもの過ごす場の提供、その保護者向け集いの開催、放課後の居場所の提供、ボランティア講師による塾、登下校見守りパトロールなどを行っています。

活動歴

- ・2020年より前身団体である橘中学校地域学校協働本部として活動を開始。
- ・継続的な支援活動を持続、発展させるため、2022年4月にNPO法人を設立

団体情報

住所：横浜市保土ヶ谷区仏向町1191番地10

Mail: tachinabasora2021@gmail.com

URL: <https://ibasho-sora.themedia.jp/>

★助成した事業・活動

放課後の居場所づくり事業「そらカフェ」

★内容

放課後、中学校の部屋や近隣の地域ケアプラザで子ども達が安心して過ごし学べる居場所の開設

★助成対象

ボランティア謝金等

助成を受けて...の思い・メッセージ

この度は助成を受けることができ、心より感謝申し上げます。

私たちの活動は、地域と学校とが連携・協働して地域の子どもたちを育てていこう。という目的で立ち上がりました。様々な環境にある子どもたちが安心して過ごせる居場所を作りたい。その1つとして、放課後にホッとひと息つける居場所があったらいいな。の声から「そらカフェ」は生まれました。公立中学校の校内の教室を借りて、放課後に子どもたちがお茶やお菓子を食べながらそれぞれが好きなことをして過ごせる場所です。本を読む、絵を描く、おしゃべりする、ゲームをする、勉強しよう。そんなカフェが学校にあったらなんて素敵でしょう。また来るね！楽しかったありがとう！の声に励まされ、これからも、安心して過ごし学べる居場所を提供し、地域の子どもたちをサポートしていきます。そしてこの活動を他の地域や学校に広めていきたいと思っています。

子どもの居場所支援活動 利用無料

そらカフェは、放課後に過ごす場所があったらいいな。の声からOPENしました。学校が終わってから家に帰るまでの時間、cafeのように気軽に寄ってのんびり過ごすフリースペースです。ほっと一息つきにぜひ一度お越し下さい。

◎場所：格技棟IF PTA室
◎利用方法：申し込み不要で、いつでも入室できます
◎対象：橘中学校生徒
◎できること：基本は自由に過ごせます
おしゃべりする・本を読む・勉強する
お茶を飲んで一息つく・ゆっくりする
ゲームをする(UNOなど)・ボートする など
楽しいスタッフがお待ちしております！

◎主催：連絡先
橘中学校地域学校協働本部 tachinabasora2021@gmail.com
地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を行っています。



魁!!橘塾 開講

一人で行き詰っていませんか？
大学生、社会人が分からないところを教えます!!

自宅で預かっていませんか？
学校の教室を自習としても使えます!!

集中力が持つか心配ですか？
好きな時間に入退室できます!!

対象
1年生：11/13(土) 9:00~10:45
2年生：11/13(土) 11:00~13:00 *入退室の時間に到着をお願いします
3年生：11/14(日) 9:00~12:00

場所
橘塾
横浜市立橘中学校 よび教室、他(格技棟1階)

参加費
無料

教材
制限もなく教材、ノート、筆記用具、水筒、上履き
*当日教室に預けていただきますので当日に持ち帰ります

申込み
参加予定の方は氏名、学年をご連絡ください
tachinabasora2021@gmail.com
*お申し込みの受付は随時となります

主催：橘中学校地域学校協働本部
地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を行っています。

NPO法人DV対策センター（横浜市）

代表 穂志乃 愛莉 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月

2022年3月31日設立

団体の目的・活動内容

すべての女性と子ども達が夢と希望を思い描いて生きていける社会の実現を目指して、DV・虐待・貧困の連鎖を防ぐ活動しています。虐待や面談DVを経験した人は、自身がひどい傷を受けて、DV加害者および被害者になるリスクがとて高くなります。当団体では、トラウマから抜け出せるように、また対等で健全な人間関係を築いていけるように、様々なカウンセリングやグループワークを行っています。

- ①DV・虐待・貧困に苦しむ当事者の相談支援・救済支援
- ②母子家庭、若者向けのシェルター
- ③当事者の自立援助支援・居場所支援・カウンセリング等
- ④母子家庭及び当事者世帯の子ども達の学習支援・居場所支援・食品提供支援等
- ⑤実家を頼れない若者のための住宅提供支援・自立援助支援・居場所支援等
- ⑥母子家庭及び当事者世帯人達への食品配布会開催
- ⑦DV・虐待・貧困の連鎖を防ぐための啓発活動

活動歴

2019年5月 任意団体ラフェリーチェ設立、月一回の子ども向け教育イベントを開始。

2019年8月イベントにきている母子に食事、食材提供を開始。

2020年3月、NPO法人DV対策センターとなる。

2020年7月より、ひとり親世帯を中心に、毎月1回の本格的なフードパントリーを開始。

2021年実績※のべ

①フードパントリー 20～38世帯(66～125名)に配布(月)289世帯(953名)に配布(年)

②子ども食堂

2021年 60日間で子ども食堂23日、利用者数83名

団体情報

〒227-0033

横浜市青葉区鴨志田町807番地5

TEL : 045-482-3422

Mail: dv.taisaku@gmail.com

★助成した事業・活動

スタッフのための研修(DV・虐待・貧困・子どもの支援)」

★内容

スタッフの知識の底上げをしていくこと、それにより相談業務や啓発活動を増やす。研修後は、認定DV相談員として、DV・虐待案件の相談業務やセミナー業務にあたります。

★助成対象

スタッフ研修費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は、当団体の研修、啓発事業に助成いただき、誠にありがとうございます。

我々の課題として、母子支援が少人数の社員に集中している点が挙げられます。

支援の幅を広げるための人員導入を行っておりますが、支援の知識が十分に行き届いておらず、人材教育が急務となっております。

そのため、頂いた助成を通じて多くのスタッフへ知識を定着させ、支援に携われる人員を増やして参りたいと考えております。

助成を頂いたおかげで、NPO法人レジリエンスと連携し、4月より毎月1回(年12回)、DV、モラハラに関するセミナーを開催しております。また、毎月の食品配布会後にも継続してセミナーを開催しております。こうした取り組みを通じて、団体の理念や支援事例など、活動するうえで大切な知見を着実に共有することができております。

今後も、より深い研修を通じスタッフの意識向上をはかり、より支援者が安心できる支援を提供して参ります。この度は、誠にありがとうございます。



一般社団法人ヨコハマ・インクルボッチャ・ラボ（横浜市）

代表 佐塚 丈彦 助成金額 140,522円

団体紹介

設立年月

2021年10月1日

団体の目的・活動内容

年齢障害性別国籍等の枠をなくし、楽しいボッチャを普及啓発する。

学校や地域でのボッチャ体験を通して、地域社会にボッチャを普及する。

活動歴

学校でのボッチャ体験学習、地域自治会でのボッチャ体験、障害者週間イベントでの体験ブース担当、ジャパンバリアフリープロジェクトにてボッチャをアイズプレイキングとして紹介。

団体情報

問合せ info@incluboccia-lab.com

HP www.incluboccia-lab.com

★助成した事業・活動

ラポール上大岡との共創パートナーとしてのボッチャ普及推進事業

★内容

ボッチャの体験会を実施し、受講者に体験終了証を付与する。

★助成対象

広報費、物品購入費の一部

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

ボッチャとの出会いは、2016年のリオデジャネイロのオリパラで、日本チームが銀メダルを獲得したニュースでした。当時、肢体不自由の子どもたちが通う横浜市立上菅田特別支援学校に勤務しており、県内の肢体不自由学校のボッチャ大会を企画しました。参加された保護者から「重たい障害のある我が子と一緒に楽しめるスポーツに出会いました。この大会を絶やさないでください」といわれ、現在7年目となり、関東全域からチームが集まる大きなボッチャ大会に成長しました。

ボッチャは、障害者のスポーツという認識が強いですが、共生社会に適した誰とでも一緒に楽しめるスポーツであることを多くの人に知ってもらいたく、ボッチャの普及事業を目的とした一般社団法人を設立しました。私たちの事業を知ってもらうためのホームページの整備管理と活動に必要な物品購入が必要で、今回の助成金はとても助かりました。楽しくボッチャを広げていきます。



NPO法人サザンコアラ（茅ヶ崎市）

代表 石橋 博美 助成金額 130,000円

団体紹介

設立年月

2020年1月29日

団体の目的・活動内容

介護サービス利用者に対して介護保険法に基づく居宅サービス事業、一般乗用旅客運送事業（福祉輸送事業）を行い公共の福祉の増進に寄与することを目的とする

活動歴

訪問介護事業による通院等乗降介助を主に有償運送をしている

団体情報

茅ヶ崎市新栄町13-16-407ダイカンプラザCITY

TEL:0467-39-5273

FAX:0467-53-9279

Mail: sazankoara@gmail.com

URL:<https://www.sazankoara-shonan.com>

★助成した事業・活動

お助け隊の設立（要支援・要介護者への通院等の乗降介助）

★内容

地域で時間が空いている人材を確保・管理してサポート体制を整え、地域の高齢者・利用者をサポートする。

★助成対象

物品購入費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度はお助け隊設立に向けての助成金誠にありがとうございました

日々訪問介護事業の中の通院等乗降介助を受け持ち作業させていただく中で現状の高齢者の方々の日々の困り事や希望しているサービスになどが見えてくる中お助け隊を必要としている高齢者が沢山いることを確信しております。

高齢者の方々も出来なくなってしまうことをすべてしてもらうことに喜びを感じているとは思えないので、出来なくなってしまうことへの少しの手の差し伸べでまた少しずつ自分らしい生活を取り戻してもらいたく安価でサービスを提供できるお助け隊の設立に向けて頑張りたいと思っております。

どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。



川和日本語教室（横浜市）

代表 染河 邦信 助成金額 287,000円

団体紹介

設立年月

2007年 7月

団体の目的・活動内容

- ・日本語習得を希望する外国籍住民・就業者等への日本語学習の指導、及び支援
- ・外国籍住民等が必要となる地域生活情報の提供、及び生活相談などの日常生活支援
- ・多文化共生理解のため、外国籍住民等とともに地域、及び国際交流ラウンジ・Myプラザのイベント、交流への参加

活動歴

2007年 1月 都筑区 日本語ボランティアスタートアップ講座 開催

2007年 7月 川和小学校コミュニティハウスにて川和日本語教室 開設

2020年 3月 以降、コロナ感染症に伴う緊急事態宣言発出時は、リモートにて活動を継続

団体情報

住所：〒224-0057

横浜市 都筑区 川和町 1 4 6 3 番地 川和小学校 コミュニティハウス内

TEL: 080-1191-0093

Mail: kawawa-jp-class@googlegroups.com

★助成した事業・活動

外国籍住民等日本語学習支援のための支援環境整備活動

★内容

パソコン2台を導入して、インターネットを前提とした新教材等を効果的に活用し、日本語活用支援活動を行う。

★助成対象

物品購入費、通信費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

外国籍住民等への日本語学習支援活動にご理解をいただき、川和日本語教室へ『福祉たすけあい基金助成金』の交付をいただき、ありがとうございます。

我が国に在留する外国人は2021年には276万人に及び、また就労可能な在留資格者は170万人を超え、在留する外国人の過半を超えるに至っています。

このような状況に応じて、国や自治体は外国人に対する日本語教育の推進に努めていますが、外国人に直接向かい合う地域の日本語教室に対する十分な施策は、未だ行き届いておりません。

助成金を活用したPCの導入によって、より効果的な日本語学習支援や日常生活支援活動が叶うと確信し、また外国人と共に暮らす多文化共生社会の実現にも努めて参りたいと思います。



特定非営利活動法人南えびなスポーツクラブ（海老名市）

代表 小林 直樹 助成金額 72,000円

団体紹介

設立年月

2015年12月1日

団体の目的・活動内容

「幼児からお年寄りまで、いろいろなスポーツ、レクレーションを定期的に長期に渡って、仲間と共に楽しむ」ことを理念に掲げて、活動しています。

活動歴

- ・幼児から年配者（障がいを持つ方を含め）を対象にしたフットサルや卓球
- ・家庭の主婦やその家族を対象にしたダンス
- ・若者や主婦を対象にしたキックボクシング
- ・年配者を対象にした森林浴、ウォーキングや子どもたちを対象にした野外宿泊

団体情報

住所：海老名市本郷5030-2

TEL:080-1084-5585 小林直樹

Mail : soccer-koufu@live.jp

★助成した事業・活動

障がいがあっても、いろいろなスポーツを楽しもう

★内容

毎週1回、海老名市本郷にあるスポーツ施設「南えびなアリーナ」で、参加者全員が楽しめるように配慮して、ボッチャ、フライングディスク、卓球・バドミントンなどに取り組む。

★助成対象

物品購入費

助成をうけて…の思い・メッセージ

車イスや身体的ハンディを持つ方のスポーツに取り組んでいます。海老名市内にある、スポーツ施設「南えびなアリーナ」を利用し、「ボッチャ」「フライングディスク」「卓球」「バドミントン」などを実施しています。障がいを持つ方が優先的に活動できるスポーツ施設として、福祉施設などはこのコロナ過の中、ワクチン接種会場になるため、利用できなくなってきています。「南えびなアリーナ」は、週に1回、優先的に利用でき、「ボッチャボールセット」「フライングディスク」「ラケット、ピンポン玉、シャトル」などの用具も準備されており、いつでも、誰でも、気軽に取り組めるようになっています。障がいを持つ方が自分の得意なもの、あるいはいろいろなスポーツにチャレンジでき、仲間と共に、定期的に、体を動かし楽しめるようにと考えています。



NPO法人ぷかぷか（横浜市）

代表 高崎 明 助成金額 320,000円

団体紹介

設立年月
2009年9月

団体の目的・活動内容

障がいのある人達の社会的生きにくさを少しでも解消することが団体の大きな目的。そのために彼らの働く場、パン屋、お惣菜屋、食堂、アートスタジオを運営しながら、障がいのある人たちとはいっしょに生きていった方がいいよ、というメッセージを日々発信している。いっしょに生きていくことで生まれる豊かさを様々な形で表現している。演劇ワークショップの舞台は彼らといっしょに生きる豊かさがよく見える。

活動歴

障がいのある人達の働くお店を運営。地域の人たちといっしょに活動するパン教室、演劇ワークショップ、アートワークショップなどを運営。演劇ワークショップは今年で7期目。2017年10月カナダバンクーバーで開かれた世界自閉症フェスティバルに参加。「魚は泳ぐ」を上演。『Secret of Pukapuka』第3回演劇ワークショップ『セロ弾きのゴーシュぷかぷか版』を上映。

団体情報

住所：横浜市緑区霧が丘4丁目17-3

TEL: 045-453-8511

Mail info@pukapuka.or.jp

URL: <https://www.pukapuka.or.jp/>

★助成した事業・活動

演劇ワークショップ

★内容

宮澤賢治の『銀河鉄道の夜』をベースにした作品の上演。月一回第三土曜日に集まって朝から夕方までみんなで芝居作り。6ヶ月かけて芝居を作り、11月最後の日曜日にホールの舞台で発表。

★助成対象

講師謝金

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

これでなんとか今年も演劇ワークショップがやれる、とホッとしました。こういった活動は収益を生まないので、活動にかかるお金は自分で用意するしかありません。

演劇ワークショップは、ぷかぷかの運営に直接関わるものではありません。別にやらなくても、運営に何ら差し支えはありません。では、どうしてこの面倒くさくてお金がかかるものをやるのか。

芝居を作るというクリエイティブな活動は、とにかく楽しいです。障がいのある人達の持っているチカラが存分に発揮できます。演劇ワークショップで作り出す芝居の面白さは彼らが作り出してくれています。彼らがいないとできない芝居。だから彼らと一緒に作る芝居は、彼らとはいっしょに生きていった方がいい、彼らが必要、というメッセージがストレートに出てきます。

「障害者はいない方がいい」と暴力的に障害者を排除したやまゆり園事件から6年。障害者のグループホームを建てようとする反対運動の起こる社会は、事件と地続きにあります。そういった社会情勢を考えると、演劇ワークショップが発信するメッセージの大事さがよくわかります。これを発信し続けることが大事だと思っています。



金沢こども食堂すくすく（横浜市）

代表 加々美 マリ子 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月

2017年3月

団体の目的・活動内容

地域みんなで子ども達を育てる「大きな家族」です。食事、食材の提供を通してお腹も心も満たす居場所を築きます。

・子ども食堂すくすく… 子ども主体で誰でも参加可能

・ホッとサロンすくすく…お母さん主体で一人親家族のみ参加可能

開催に併せて学習支援や工作、各種体験活動やイベントを行っています。

活動歴

2017年3月～誰でも参加できる子ども食堂開始

2018年6月～一人親家族食料支援ホッとサロンすくすく開始

2020年3月～6月一人親家族向け食料支援配達

2020年7月～ホッとサロンすくすくを月2回開催

2022年3月 野島研修センターとコラボし食育教室開催

2022年8月 すくすく祭り開催

団体情報

TEL: 080-5086-4940(加々美)

Mail kanazawa.sukusuku@gmail.com

URL: <https://sukusuku.amebaownd.com/>

Facebook: <http://bit.ly/2kH9bXH>

★助成した事業・活動

金沢子ども食堂すくすく

★内容

2か月に1回の体験教室の開催、学習支援

★助成対象

体験教室費用等

助成をうけて…の思い・メッセージ

この度は私達の活動へのご理解いただき、助成くださったことに心から感謝申し上げます。

私達が以前より望んでいた一人親家族への体験活動を企画できるとスタッフ一同とても喜んでいました。この3年間のコロナ禍で一人親家族は経済的・精神的負担を強いられてきましたが、すくすくでは今まで以上にご家族に寄り添う大切さを感じています。

すくすくは、お母さんも子どもたちも多くの人と交流し、いろいろな体験を通して心を豊かにすることで、一人親家族に生じる負の連鎖を断ち切ることが幸せへの近道だと考えております。

今後のイベントやワークショップ、野外活動などで普段体験できないことを通し、新しい自分を発見し成長してほしいと願っています。

また、参加家族の心の声、悩み事などに耳を向け、自立した生活が送れるよう、各所と連携しながら、孤立するご家族がいなくなることを目指します。の大事さがよくわかります。これを発信し続けることが大事だと思っています。



特定非営利活動法人 地域で子どもを育む会（川崎市）

代表 小畑 睦 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月
2022年4月

団体の目的・活動内容

- ・教育事業
- ・子ども食堂事業
- ・音楽事業

活動歴

- ・夏休みイベント7月、8月
- ・食育活動

団体情報

URL: <https://acc-k.or.jp>

★助成した事業・活動

寺子屋事業

★内容

寺子屋事業を中心に軽食提供やその他コミュニケーションを図るアクティビティーを通して、現在の地域の子どもの抱える問題を少しでも解決する居場所作り

★助成対象

会場費、交通費等

助成をうけて...の思い・メッセージ

今回助成を受けることができ、元気をいただきました。新型コロナウイルス感染拡大により、閉鎖的な世の中となり、小学生やコミュニケーションを必要とする子どもたちに大きなストレスとなりました。徐々に会話ができる環境となりましたが、子どもたちの居場所として、また、忙しいご家庭での子育ての一助となればと、寺子屋や子ども食堂を楽しいアクティビティーとともに、行います。

特に来てほしい環境にある児童にとっては、無料にすることは必須であります。そのため、どのようにして、会場費やボランティアの方々のせめて交通費をお出しできればと思っておりました。

今回の助成を受け、立ち上げのこの9月から資金を心配せずに地域の皆様に認知していただき、細部にまで情報を行きわたらせ、必ず、届いてほしい方に届くことができることと、子どもたちの安心して過ごすことの出来る場所となるようにしてまいります。ありがとうございます。



特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ キャリージョイ（厚木市） 代表 河村 尚子 助成金額 45,000円

団体紹介

設立年月

1997年3月（2001年7月NPO法人各取得）

団体の目的・活動内容

市内の高齢者デイサービスの送迎を担うことをきっかけに、高齢者の移動や外出の状況を知り、「歳をとっても障がいがあっても、住み慣れた地域（家）で自分らしく暮らし続けたい」「行きたい時に行きたいところへ」自分の意思で、自由にでかけたいという想いは自分たちも同じ。自分たちの将来も見据えて、高齢者や障がい児者の外出を支援する『ケア付き外出支援サービス』を始めた。

志を同じくする人たちで参加型の組織（ワーカーズ・コレクティブ）を立ち上げ、その後法人格を取得し、2006年から制度化された「福祉有償運送」としても活動しています。しかし、制度では実現できない設立当初からの想いである「楽しみのためのおでかけ」を大事に、利用者や協力者（ボランティア）と一緒に『おでかけ企画』を実施しています。

活動歴

- ・市内3施設の高齢者デイサービス送迎（朝夕5台）
- ・外出支援サービス（福祉有償運送）。現在利用登録者187名、年間約5,000件のサービス実施。
- ・施設入居者（高齢者及び障がい児者）の外出支援。
- ・年数回の「おでかけ企画」（お花見、観光、初詣等）実施。現在はコロナで中止している。
- ・地域啓発事業として、研修会や講演会を実施。また利用者の選挙投票を支援。
- ・外出支援サービス担い手研修（他団体の認定研修）の講師及びスタッフとして協力。

団体情報

住所：〒243-0032 厚木市恩名1-16-68 アルカディアマキ101

TEL: 046-294-4350

Mail: carry-joy4350@aqua.ocn.ne.jp

URL: //carryjoy.net/

★助成した事業・活動

「車いすの車両乗車時の安全に関してのフォーラム」

★内容

かながわ福祉移動サービスネットワークから講師を迎え、車いすのシーティングについて学習およびディスカッションを行った。

★助成対象

講師謝金

助成をうけて...の思い・メッセージ

日々、高齢者や障がい児者の外出支援やデイサービス送迎を担っています。利用者には車いす使用者も多く車いすのまま乗り込める福祉車両を使用しているの運行がほとんどです。しかし、車いすのまま乗車することの危険性（安全担保に課題がある）ことの認識は、当事者（家族）をはじめ、私たち担い手や援助者（ケアマネやヘルパー等介護の専門職）も十分に把握しているとは言えないのが現状だと思います。シートベルトやヘッドレストの正しい装着、車いすの固定に加え、体に合った車いすに座れているかどうかを安全を確保する重要な要素だということ。その私たちの「気づき」を多くの関係者に知ってもらい、専門職にフィードバックすることで利用者の安全が担保でき、外出を楽しむことができる。そのことは地域福祉の充実への貢献にもつながると思い「地域啓発事業」として企画しました。

講師2名の謝礼金と印刷経費を助成して頂き『車いす利用者の車両乗車時の安全に関してのフォーラム』を開催し、利用者への「安全・安心」に対する意識の向上と、地域の関係者との連携・協力が一歩すすんだ気がします。



寒川神社
へ初詣



コロナワクチン接種に出かけます



車いすでのシーティング学習会

東大跡パラスポーツの会（二宮町）

代表 榎本 泰子 助成金額 145,000円

団体紹介

設立年月
平成29年2月

団体の目的・活動内容

地域における共生社会づくりを推進する環境の一つになることを目的とする

パラスーツの実践、地元小学校の放課後事業や地元中学校の福祉体験授業の講師、障がい者に対する各種研修会、用具のレンタル

地元での各種スポーツ大会の企画・運営

活動歴

月一回、パラスポーツ体験会

パラリンピック聖火リレーや行政の障がい者スポーツ大会へ選手輩出

各種障がい者スポーツ研修会・あいサポート研修会

団体情報

住所：中郡二宮町二宮1169-43 朝日山一男様方

電話：0463-70-5178

URL：<https://nino-parasport.localinfo.jp>

★助成した事業・活動

「みんなでスポーツ!ステップアップ3か年計画」

★内容

老若男女・障がいなどの有無を越えて幅広く参加できるという点で、ボッチャに勝競技はない。用具を充実させて、地域での共生づくりをすすめる。

★助成対象

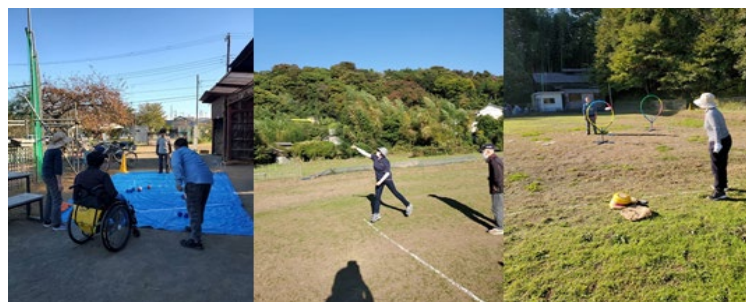
物品購入費

助成をうけて…の思い・メッセージ

この度は、助成頂き、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。東京2020オリンピックレガシーにより、より共生社会の大切さや実践することが求められております。

当会では、パラスポーツを地元の方々に、より理解して頂き、障がいの有無、子供から高齢者までが、スポーツを安心・安全に楽しめるようしっかり運営させて頂きます。また、スタッフ一同の生きがいとして活動して参ります。

ボッチャ競技や陸上競技等の用具を充実させ、皆様の真心を忘れず、大切にさせて頂きます。



着物de文化フォト未来事業（相模原市）

代表 魔耶(石原清美) 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月
2018年4月

団体の目的・活動内容

七五三・成人のお祝い記念撮影会を開催しています。育つ場所の経済的困難の影響を受けずに、友人たちと同じクオリティーで日本文化である自己の成長を自覚し愛でる体験を通して、現状に悲観することなく“自分は人生の主人公”である自信と意識を持てる自己肯定感の強い社会、また生きる幸せを地域との関わりを持ちながら感じられる社会実現を目的としています。

活動歴

2018年 相模原市緑区地域活性化事業認定
第1回成長お祝い撮影会実施29名様ご参加
2019年 相模原市緑区地域活性化事業
第2回成長お祝い撮影会実施 19名様ご参加
2020年 コロナ蔓延防止により中止
2021年 相模原市緑区地域活性化事業
第3回成長お祝い撮影会実施 29名様ご参加
(初めて相模原市の児童福祉施設10名ご招待)
相模原市緑区地域活性化認定事業修了
2022年 着物de文化フォト未来事業として相模原市市民活動サポートセンターに任意団体として登録、活動再結成 後援: 相模原市/相模原市教育委員会/相模原市自治会連合会相模原市緑区合同庁舎をお借りして第4回成長お祝い撮影会を2回実施

団体情報

お問い合わせ: kimonofoto.mirai@gmail.com (事務局)
URL: <https://www.sagamiportal.com/hp/dnt10142/>

★助成した事業・活動

ひとり親家庭・経済的困難家庭・児童福祉施設の子ども達を対象とした七五三・成人のお祝い記念着物撮影会

★内容

支援対象者に、着物で撮影会全セット(衣装選び・着付け・ヘアセット・メイク・撮影・台紙付き写真)のお祝いをし、成長を自己認識、共に喜び合う。後日台紙付き写真を郵送、または手渡しにて、子供の成長が地域に愛されている証を残し、自身の喜び、肯定感向上に役に立ててもらう。

★助成対象

材料費・送料等

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

誰もが平等に育ち、環境に格差なく「大切な成長の写真を残して欲しい！」そんな想いで、2018年から始めた「七五三・成人式の応援撮影会」です。まだまだ地域には様々な問題を抱えて生きていく事だけで精一杯で高額な節目の記念撮影をしてあげたくてもできなかった方たちがたくさんいます。そのような方たちに、私たちプロの持つスキルで少しでもお役に立ちたくて始めた活動。撮影会当日は涙あり、笑いあり、目の前で繰り広げられる様々な物語に胸が締め付けられて感動が湧き上がってきます。

この活動に支援を頂きありがとうございました。子どもたちの未来へ続く活動のため活用させて頂きました。



一般社団法人Titina（横浜市）

代表 右田 伊久江 助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月
2018年10月

団体の目的・活動内容

住み慣れた地域で、個人の多様な価値観や意思を尊重し、新たな『つながり』が構築され、自分らしく暮らし続けることを支える自立した仲間作りを目指し、心理的な安全性やコミュニケーションについて学びあう場や機会の提供を行いたい。また、医療的な依存度の高い生活を送っている方々も心躍る音楽を聴く機会や安全に配慮された美味しいものを口にする機会も探していきたい。

【やってみたいことにトライできる場】

①貸棚 ②貸スペース

【楽しめる場】

③生の音楽やプラネタリウムなど催し物

④エスプーマ(嚥下食)の提供

【安心して過ごせるサードプレイス】

⑤コミュニティ冷蔵庫/フードパントリー

⑥カフェ(ちょい呑み)・子どもや大人の食堂

⑦子どもの育ち応援、対話のまちづくり:みんなのオープンダイアログ

活動歴

・現状の福祉サービスだけでは明日を安心して向かえ心豊かに生きていくエネルギーに繋がりにくい実態を鑑み、フードパントリーの実施開始。任意団体海街を立ち上げ連携している。

・特別支援学校の卒業のお祝いを兼ねて、2022年3月横浜ラポールを会場にして、星つむぎの村のドーム型のプラネタリウムで星空の世界を鑑賞する機会を頂いた。

・居場所スタートアップとして、地域の方にギターを披露いただいたり、有志の方に焼き菓子を提供いただいた。

団体情報

住所:〒222-0037 横浜市港北区大倉山3-7-14

Tel: 045-298-7381

Mail: titinaookurayama2018@outlook.com

facebook 一般社団法人Titina 大倉山相談室

★助成した事業・活動

障がいのあるなしに関わらずその人が過ごせるフリースペース・(仮称)大倉山ルーム運営事業

★助成対象

物品購入費

助成を受けて...の思い・メッセージ

第18期福祉たすけあい基金の助成を頂きありがとうございます。障害をお持ちの障害福祉サービス制度を利用する際に必要な指定特定相談支援事業所として2018年に事業開始しました。当初からの目的として、既存の制度の枠組みに加え、日々障害のあるなしや生活困窮者といった別なく、地域に暮らす人々がその人のニーズを起点に、「誰もが置き去りにされない」というテーマを身近な地域からめざしていきたいと考えておりました。2022年6月「居場所」や「つながりが持てる機会」「力を発揮するための場所」「心躍る時間」を創出する場所として大倉山3丁目に「ふらっとTitina」を開きました。福祉たすけあい基金からの助成はとても大きな力となります。今後の皆さんの笑顔につなげていきたいと思ひます。



代表 宮本 早苗 助成金額 380,000円

お福わけの会（横浜市）

代表 飯吉 明子 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月
2015年12月

団体の目的・活動内容

横浜市瀬谷区で地域子育て支援活動をしてきたNPO法人さくらんぼとNPO法人まんまが連携し、任意団体として発足。複数のフードバンクの協力の元、それぞれの支援現場（現在区内に8か所）を通じたひとり親や生活困窮家庭等への食支援を行っている。個別に手渡しをすることで顔の見える関係を持ち、状況・必要に応じた情報提供や専門機関との連携も行なっている。

活動歴

2015年の発足以来、セカンドハーベストジャパン、フードバンクかながわ等からの食料品の提供を受け、登録者に向けた定期的な食支援を行っている。不定期ではあるが、地域住民からの寄付品による「お福わけバザー」なども実施しながら現在は、1世帯当月2回程度の配布を行っている。

団体情報

住所：横浜市瀬谷区瀬谷4-7-19

NPO法人まんま内 お福わけの会事務局

TEL&FAX 045-303-5393

ofukuwake.seya@gmail.com

★助成した事業・活動

お福わけの会「ドライブ & パントリー & フリーマーケット」

★内容

未成年を育てているひとり親や生活困窮家庭を主な対象に年6回程度開催。

★助成対象

会場費、謝金等

助成を受けて…の思い・メッセージ

この度はお福わけの会に助成をいただきありがとうございました。食料品や日用品などはフードバンクから、またフードドライブにてありがたういただいておりますが、配送、仕分けなどは力仕事も多いため、活動費を頂けることはとても励みになります。また物品の保管や受渡し場所としてのスペースの確保が必須となる活動です。コロナ禍の経済的な影響は今後もしばらく続くと思われ、ひとり親等子育て中の家庭など必要な人にはまだまだ支援が届いていないと感じています。今回の企画は、フリーマーケット開催という形で地域に活動を周知し、対象者と繋がる、あるいは支援者を増やすきっかけになればと思っています。フードロス、リサイクルなど、SDGsも意識しながら、地域を巻き込み「たすけあい」につながるような活動をして参ります。



逗子ゼロ・ウェイストの会（逗子市）

代表 田中 尚武 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月
平成21年5月

団体の目的・活動内容

心地よい暮らしをより一層充実したものとするため、廃棄されてしまう資源の回収や、資源の有効活用、焼却に頼らない廃棄物処理の実現などにより、持続可能な資源循環型社会「ゼロ・ウェイストのまち逗子」の構築をめざし、逗子市及び市内環境諸団体・市民と協働して活動。平成30年度ボランティア活動奨励賞（神奈川県）受賞。

活動歴

- ・設立当初より「エコ広場ずし」活動（もったいない市・生ごみリサイクル・リペアカフェ・きものリユース・フードドライブ等）を逗子市役所、市民交流センター、コミュニティセンター等で展開してきた。
- ・令和3年4月、逗子市の空き家対策プロジェクト支援の下、拠点を「SDGsネットワークひなた」へ移し、「エコ広場ずし@桜山ひなた」として再出発。
- ・これを機会に、「エコ広場ずし」活動をより充実させ、ボランティアスタッフ同士、並びにシニア層、子育て世代、生活困窮者との交流はもとより、来場者、参加者同士の交流の場としての役割をもプラスさせるべく「ふれあい・わかちあい」推進事業を企画、助成を受託。

団体情報

住所：〒249-0001 逗子市久木3-9-21（田中宅内）
電話：090-6114-1748（田中）
Mail: hisa524tanaka@jcom.zaq.ne.jp
URL: <https://zushizerowaste.wixsite.com/z-zw>

★助成した事業・活動

エコ広場ずし「ふれあい・わかちあい」推進事業

★内容

拠点の再整備による来場者の交流の場として活発化。ZOOMやYouTube機能を備えた「ふれあいラボ（仮称）」の設置

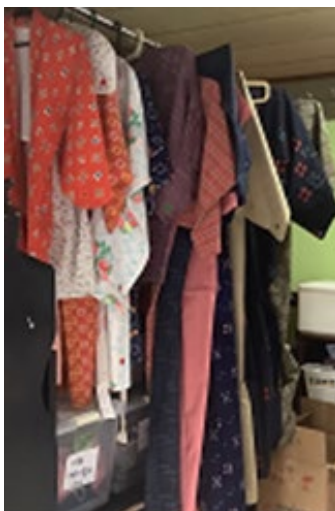
★助成対象

倉庫代、物品購入費

助成をうけて…の思い・メッセージ

逗子ゼロ・ウェイストの会は、設立当初より「エコ広場ずし」活動を展開しており、広く逗子及び近郊の皆様から熱い支持を受けてきました。ここに来て、その活動は7R（リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ・リフォーム・リペア・レンタル）の推進にとどまらず、シニア層の交流の場の創出、子育て世代や障がい者、生活困窮者への生活支援などの地域課題の解決、さらにはシニア層による子育て世代への「暮らしの知恵」の伝承にも貢献すべきとの思いに至り、新たに「ふれあい・わかちあい」推進事業を企画し、福祉たすけあい基金に応募しました。幸いご支援を頂き大変ありがたく思っています。

推進事業の具体策としては、手狭になった拠点の再整備を進め、来場者の交流の場として活発化を図るとともに、ZOOMやYouTube機能を備えた「ふれあいラボ（仮称）」を設置し、一般市民に提供するとともに、関係者の更なる研修や啓発の場、情報発信基地として、展開していきます。



きものリユースコーナー



「エコ広場ずし@桜山ひなた」のイベント模様



エコワークショップ（新聞紙バック作り）



フードドライブコーナー



「ふれあいラボ」の発信風景

一般社団法人ウィメン&キャンサー（相模原市）

代表 瀬下 美和 助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2021年12月（活動開始は2017年11月から）

団体の目的・活動内容

<活動目的>

婦人科癌患者団体として4つの活動目標を掲げています。

- ・あらゆる女性の健康と婦人科がんについての意識を向上し、早期診断を促進する
- ・科学的根拠のある情報を発信し、質の高いケアへのアクセスを促進する

- ・女性と患者の権利を支援し、擁護する

- ・科学研究を促進し、刺激する

<活動内容>婦人科がん患者向け医療セミナーなど各種イベント開催、患者交流会の開催、患者アンケートや意識調査など各種アドボカシー事業。

活動歴

- ・自主勉強会「Ovarian Cancerワークショップ」や患者向けスタディツアーの開催
- ・患者アンケートや意識調査の実施
- ・患者向けヨガ教室の開催
- ・日本婦人科腫瘍学会、日本産科婦人学会など関連学会への参加と患者向けレポート（電子版）発行
- ・大学等研究機関への研究協力
- ・国内外の婦人科癌に関する臨床試験情報の収集と共有
- ・化粧品メーカーなど企業とのコラボ事業の実施など

団体情報

住所：相模原市中央区上矢部2-8-12

メール：info.wcan@gmail.com

HP：https://wcan.hatenablog.com/

★助成した事業・活動

みんなの婦人科癌「見える化」プロジェクト

★内容

婦人科癌患者のための支援・教育プログラムの整備事業

★助成対象

物品購入費、通信費等

助成をうけて…の思い・メッセージ

私たちの活動にご理解と支援を頂きありがとうございます。婦人科癌とは子宮、卵巣、卵管、膣、外陰など女性生殖器に発生する悪性腫瘍の総称です。日本国内で癌と診断される女性の約1割を占めますが、ひとつひとつの病としては患者数が少なく、詳細な情報や支援・啓発が慢性的に不足しています。「だらしのない、性的に乱れた女の病」などの偏見や差別もあります。なにより患者自身が病をタブー視して苦しんでいます。女らしさを象徴する臓器を失う悲しみや子どもをもてない辛さ、特有の後遺症など。全てを患者は抱え込み、孤立し、子どもの学校や職場、友人知人、地域に病気を隠して暮らしています。だから終末期なのに「家にいる専業主婦」として学童保育すら利用できない—そんな事例が頻発しています。

私たちは婦人科癌の「見える化」をすすめ、患者の立場から病の実像を発信していきます。微力ですが婦人科癌になっても安心してすごせる社会の実現に力を尽くします。



特定非営利活動法人 峠工房（横浜市）

代表 松本 淑子 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月

1969年10月（NPO法人2009年10月）

団体の目的・活動内容

知的障害者、発達障害児・者、小中学生や一般市民に対して、学外支援や交流活動に関する事業を行い、社会福祉に寄与することを目的とする。

- (1)保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2)社会教育の推進を図る活動
- (3)子どもの健全育成を図る活動

活動歴

1969年10月「住み慣れた地域で生き続ける力」をつける療育を求める人を支援する認可外福祉施設として創設。

2009年10月 NPO法人となり、発達障害児・者、学校などで生きにくさを感じている児童、子ども達のために個別コミュニケーション教室「生活塾」を開設。教育相談・親子相談等にも力を入れる。

2016年12月 放課後等ディサービス児童発達支援開設。

1969年の開設当初から、他にない活動を広く知ってもらうためにイベント、他団体との協働事業などを実施している。

団体情報

住所：横浜市泉区上飯田町4729

電話番号：045-301-4646

Mail：mail@tougekobo.sakura.ne.jp

★助成した事業・活動

世代を超えた居場所づくりの事業

★内容

借り受けた羽太郷土資料館の居場所としての整備

★助成対象

講師謝金、会場費等

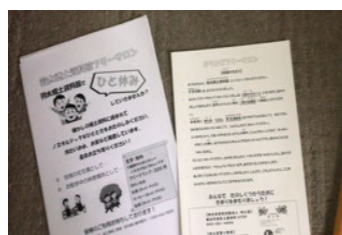
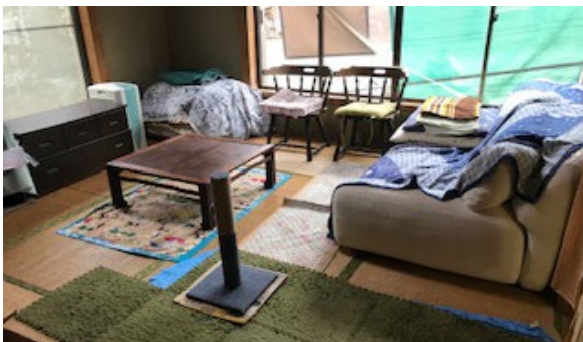
助成をうけて…の思い・メッセージ

放課後等デイサービスとして、地域の皆様に馴染み深い羽太郷土資料館を借り受け、地域の人たち、子どもたちとの交流が新たに生まれ、深まれば深まる程、地域課題としての居場所の少なさを感じ、何かしたいとずっと考えていた事を形にできる力を与えてくださりとても感謝しています。

こういう助成を認めてもらえたよ、だからこうしよう、ああしようと話す子どもたちも地域の方もみな協力してくれて、準備や広報、日々の活動も自ら進んで協力してくれ、その力添えは私たちの力にもなり、またお力添えくださる皆様にも活力となっているように感じます。

10月29日、告知イベントとしてハロウィンのお菓子配りをしました。それ以外には特に何もプログラムはなく、ただ子どもたちはいつもの友達と、また世代の違う人好きなものの話をしたり、一緒に体を動かしたりして過ごすだけでしたが、自分たちがやりたいことや好きな事を自由に分かちあえるという空間があるだけで心を満たされていた様子でした。

これからが本番！頑張っていこうと思います。



NPO法人 街の家族（横浜市）

代表 押久保 美佐子 助成金額 400,000円

団体紹介

設立年月
2020年8月

団体の目的・活動内容

地域世代間交流の希薄化が進む中、3.11を契機に「出来る人が出来ることで参加、どんな時も繋がり合い、

助け合える」をモットーに2012.6＜街の家族＞任意活動を空家で開始2020.8 NPO化

①地域の子育て見守り愛事業：子の成長と共に、妊娠幼児・未就学児、就学児の身近な地域ニーズを引き受け手に！R3に認可外一時保育事業を事業化

②地域の生活福祉事業：元気なシニアが毎日の“街”総合事業(注)担い手となり、事業を支えます。これを70・80代シニアの元気力と重ね、地域の介護予防事業に重ねていきます。(注)食事業、子ども見守り事業の全体的なお世話、見守り、目配りなど…

活動歴

設立当初からコロナ前迄年間1000イベント/参加者2200家族、2014年から広報誌まちだより1000部/月地域や施設に配布 2019年横浜市ひと・まちデザイン賞まちづくり部門賞受賞(三世代協力による地域福祉具現化例)

団体情報

227-0036
横浜市青葉区奈良町1566-332
TEL:070 4400 1306
Mail:machikazoku@yahoo.co.jp

★助成した事業・活動

手をつなごう！地域の第三の子どもの居場所づくり事業の推進

★助成対象

家賃、物品購入費等

助成を受けて…の思い・メッセージ

皆様のお志により私たちの活動が続けられますことに心から感謝いたします。コロナ期を通し私達の活動を改めて基本から見直す機会を頂きました。私達の活動の場＜空家＞、コロナ期間の昨半9月迄はオーナーさんのご配慮を頂き全額家賃免除頂きましたがいつまでもそうはいきません。コロナ期間最中にNPOを設立しました。

今迄＜空家＞に閉じこもりがちな活動となりがちでしたが初心に戻り、今迄に“積み上げた大家族的な緩い繋がりを地域にく重ねる取り組み”が重要で、要は“人”＜地域活動をコーディネート＞する地域人材です。今回の助成で来年度半年分の家賃助成を頂きました。あとは私達の行動力です！頑張ります。

地域づくり人材の育成と充実に横浜市の市民活動を応援する「よこはま夢ファンド」ふるさと納税制度を活用したい！横浜市のよこはま夢ファンド基金に登録をこの8月にすませました。応援いただけますとありがたいです。



今日のお昼をシニア当番が準備

三世代の介護予防健康体操
ニコニコ健康クラブの様子



まちなかハロウィーンを終えて
近所の公園で、ハーイポーズ

特定非営利活動法人法人 アスリード（横浜市）

代表 武政 祐 助成金額 298,000円

団体紹介

設立年月

2019年9月20日

団体の目的・活動内容

若者も大人も共に学ぶ“キャリア共有”を掲げ、神奈川県内を中心とした企業108社の協力を得ながら活動。「どんな環境にあっても自分を信じて自分の人生を力強く歩いていくことのできる人」を育むため、キャリア教育支援誌『みらい百花』の発行や職業講話のコーディネート、自立支援カフェの運営などを行っています。

活動歴

前進団体での9年間の活動を経て、2019年9月にNPO法人アスリードを設立。

昨年度は地域企業取材したキャリア教育支援誌「みらい百花」を385校、69,625名に配布。職業講話はのべ26校、4,060名の中高生に参加していただくなど、教育現場と地域社会を繋ぐ活動を行っています。

団体情報

【リモートオフィス】※常設の事務所ではありません。

〒224-0023 横浜市都筑区東山田4-40-23

Cafe&Factory DEN内

TEL : 045-325-8801

MAIL : info@aslead.org

HP : <https://aslead.org/>

★助成した事業・活動

～みんなで学び考える～キャリア共有市民講座

★内容

神奈川県内の若者のキャリアに関心がある人を対象に隔月にテーマを決めて開催。講師のお話とワークショップを組み合わせ、みんなで若者のキャリアについて考える場をつくる。オンラインイベントも開催する。

★助成対象

通信費等

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

中学校におけるキャリア教育の授業は、「総合的な学習の時間」という授業の一環として行われますが、その内容は学校によって様々です。2021年度から中学校で全面施行された新学習指導要領のローガン「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、地域住民、身近な大人の協力が必要不可欠ですが、現状「キャリア教育」の認知度は低く、授業に協力することはハードルが高くなってしまっています。

アスリードではキャリア教育の一環として行われている職業講話を年間20校以上コーディネートしていますが、講話に登壇していただく方はアスリードの正会員、賛助会員が主になっており、“社会に開かれた”状態だとはまだまだ言えない状況です。

今回いただいた助成金は“社会に開かれた”状態を作るため、市民講座という形でより多くの方に若者の現状を知っていただき、大人も自分自身のキャリアに向き合い、そして未来について一緒に考え共に育つことのできる地域づくりに活用させていただきたいと思います。



コロナ禍ではオンラインで社会人の話を聞くことができるプログラムを実施



実際に製品や仕事で使っている機械などにも触れることができる『体験型職業講話』



登壇する地域企業(大人)の自身のキャリアを振り返るきっかけにもなっています

財団を応援する「賛助会員」募集と「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い



賛助会員募集

公益財団法人かながわ生き生き市民基金は、助成事業（福祉たすけあい基金、エラベル）、研修・セミナー事業（フォーラム開催、報告書発行）、相談・助言事業（フードバンク支援業務受託、遺贈・生前寄付）、広報事業の4つの事業を行っています。かながわ生き生き市民基金では、当財団の活動を継続的に支援して下さる「賛助会員」を募集しています。賛助会費は財団の運営に活用します。賛助会員としてかながわ生き生き市民基金への応援をお願いします。

<会費>

個人会員 年会費（1口 1,000 円）1口以上

法人・団体会員 年会費（1口 10,000 円）1口以上

- 賛助会費は当財団への寄付となり、税制優遇処置の対象となります。
- 賛助会員として支援いただくと下記のような特典があります。

<会員特典>

- ・ 年次報告書の送付
- ・ 助成団体報告書「福祉たすけあい基金 BOOK」の送付
- ・ フォーラム報告書の送付
- ・ 当財団が企画開催するイベントへのご招待(フォーラム、贈呈式)

公益財団法人かながわ生き生き市民基金 賛助会員規程

(目的)

第1条 この規程は、公益財団法人かながわ生き生き市民基金（以下この法人という）の事業の発展のために協力する賛助会員に関して、必要な事項を定めることを目的とする。

(資格)

第2条 この法人の目的に賛同し、その事業に協力しようとする個人又は法人は、会員になることができる。

(入会)

第3条 会員になろうとする者は、所定の入会申込書を提出しなければならない。

(会費)

第4条 会費は入会時に年会費を納入し、以降、年会費を毎年納入しなければならない。

2. 年会費は次のとおりとする。

- (1) 個人賛助会員 1口 1,000 円 1口以上
- (2) 法人・団体賛助会員 1口 10,000 円 1口以上

3. 会員が納入した年会費は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

(特典)

第5条 会員はこの法人が提供する次の情報・サービスを受け取ることができる。

- 1. 年次報告書 2. フォーラム報告書 3. 助成団体報告書

4. この法人が企画開催するイベントへの招待

(退会)

第6条 会員は退会届を代表理事に提出し、任意に退会することができる。

2. 会員は次の事由により資格を喪失する。

- (1) 法人の解散又は個人の死亡
- (2) 会員が正当な理由なく年会費を滞納し、かつ催告に応じないとき。

(会費の用途)

第7条 会費はこの法人の公益目的事業を推進するための活動費用（事業費・管理費）に使うものとする。

(改正)

第8条 この規程の改正は、代表理事が理事会の決議を経て行う。

附則

- 1. この規程の施行に関し、必要な事項は別に定める
- 2. この規程は 2018 年 8 月 11 日から施行する。



「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い

神奈川県内で福祉たすけあいの市民活動支援へのご寄付をお願いします。
 公益財団法人かながわ生き生き市民基金では、毎月 100 円の寄付(手続き上、年間分一括振込)をお願いしています。寄付金のうち 65%を「福祉たすけあい基金」の助成金として活用します。
 また、35%は公益財団法人の運営費(管理費、広報費、市民活動のネットワーク費など)として使わせていただきます。現在 1 万人を超える方々が継続寄付に賛同されています。
 年度の事業活動報告書は財団のホームページからご覧になれます。

「賛助会員・福祉たすけあい基金」への寄付申込方法

37 ページの申込用紙に必要事項をご記入いただき、
 ①郵送、②ファックス (045-620-9045)、③E-mail、のいずれかで当財団まで送付ください。
 住所：222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6 階
 FAX：045-620-9045 迄
 E-mail：info@lively-citizens-fund.org

上記手続きが済みましたら以下の方法にてご入金をお願いいたします。

●郵便振替

記号番号 00250-0-72370

公益財団法人かながわ生き生き市民基金

●銀行振込

中央労働金庫 新横浜支店(334) 普通 3603639

公益財団法人かながわ生き生き市民基金

●現金書留

送付先：〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15 6F

公益財団法人かながわ生き生き市民基金 行

通信欄に「賛助会員」、
 「福祉たすけあい基金」の
 いずれかを記入ください。

税制優遇が受けられます

公益財団法人かながわ生き生き市民基金へのご寄付は、確定申告により以下の様に税制上の優遇措置を受けることができます。

所得税控除・・・・・・・・・・・・・(公益法人への寄付総額・2,000 円) × 40%

県民税・市町村民税控除・・・・・・・・・(同上) × 10%

例：横浜市在住の方が 10,000 円をご寄付された場合

(10,000 円-2,000 円) × 50% = 4,000 円が控除されます。

詳しくは財団ホームページか、お住まいの自治体・税務署でご確認ください。





公益財団法人

かながわ生き生き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund



発行：公益財団法人 かながわ生き生き市民基金

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6F

Tel : 045-620-9044 Fax : 045-620-9045

Mail : info@lively-citizens-fund.org

URL : <https://www.lively-fund.sakura.ne.jp>

Facebook : <https://www.facebook.com/livelycitizensfund>

発行日：2023 年 1 月 1 日